



現場や地方を大事にする

参議院議員 安達きよし

きよし便り

創刊号

草の根+組織の両輪で勝利！ 初心忘るべからず

「皆さん、一緒に勝ちましたね」。当選が確定した直後の挨拶で、私の口から思わず出た言葉です。後日録画を観ると、3度も繰り返していました。選挙戦を振り返って、この言葉こそ、私の正直な気持ちです。

「今の政治は、地方や現場で頑張っているわれわれ庶民の方を向いていない。いったい誰を向いているのか?」。われわれ庶民の感覚からかけ離れた政治に憤りを感じ、熟慮の末に2018年秋、参議院議員選挙への出馬の意向を固めました。でもその時の私は「アリ一匹」の状態。

地元の別府には、ずっと私を陰日向に支えてくださる方々がいましたが、参院選は全県一区。とても太刀打ちできません。



当確直後にお礼と決意表明の挨拶

しかし、大変心強いことに、出馬の意向を固めてから、連合大分(労働組合の代表組織)をはじめ

め、各方面の多くの組織の皆さんから支援を頂戴することができました。選挙戦の17日間、選挙カーで大分県内を東奔西走するなかで、海沿い、山奥、町のなか、どこに行ってもビシッと私の選挙ポスターが貼られていました。「私の知らないところで、私の知らないどなたかが、早朝からポスターを貼ってくれました。だから自分は今、こうやって戦うことができている」。ほんの一例ですが、組織の皆さんの支援に、心から感謝しながら選挙戦を戦っていました。

そして、草の根です。県内各地の公民館でミニ集会をおこなったり、知人の紹介を頼りに挨拶回りをしたりするなかで、県内津々浦々に少しずつ、支援の輪が広がっていききました。私の支援者の皆さんは、老若男女問わず、「あまりに好き勝手な今の政治に風穴をあけてほしい」という純粹な気持ちで応援してくださいました。私利私欲とは無縁の方々です。そんな皆さんに支えていただいたことをとても嬉しく、誇りに思います。

土砂降りの雨のなか、濡れないよ

うに私のチラシを胸に抱えながら、知人に声掛けをしてくれているご年配の男性を住宅街で偶然見かけたときは、「絶対に負けられない。勝つことが恩返し」と、ぐっと胸が熱くなりました。

女性パワーにも圧倒されました。特に女性のロコミやネットワークは凄かった！ 集会では、握手した手をなかなか放していただけないことも多々ありましたが(笑)、どんどん仲間を増やしてくださいました。



選挙戦初日 別府駅前での出陣式



身動きが取れなくなる時も(笑)